

生態工学 2021 年度第 1 回理事会議事録

日 時:2021 年 5 月 26 日(水)10:45~12:30

場 所:Web 開催(Zoom)

【総務委員会】

2020 年度総務委員会活動報告

(1) 会員数・賛助会員数に関して報告があった。

会員数:2021 年 5 月 24 日現在(カッコ内は 2021 年 2 月 12 日からの増減)

終身会員 1 名(増減なし)

正会員 313 名(3 名増)

学生会員 78 名(2 名増)

合計 392 名(5 名増)

賛助会員数:4 団体 5 口(増減なし)

ダイキン工業株式会社(2 口)、ホテイ産業研究所(1 口)、

宇宙システム開発株式会社(1 口)、クリムゾンインタラクティブ(1 口)

(2) 審議事項

・第 12 回 日本学術振興会 育志賞受賞候補の推薦者を募ることとなった。

・生態工学会第 11 期役員について、理事の推薦があれば 6 月 4 日までに事務局に連絡することとなった。

・決算書類に関しては、過去 7 年分を事務局に保管することが確認された。

(3) 報告事項

・日本農業工学会に役員候補者として、大政謙次名誉会員を推薦した。

・2021 年度 日本農業工学会フェロー・学会賞・新農林社賞授賞式が 5 月 14 日に開催され、当会からは皆川秀夫会員に「日本農業工学会賞 2021」、増田篤稔会員、齋藤高弘会員にフェローの称号が授与された。

2021 年度総務委員会事業計画

下記の計画が発表された。

(1) 学会運営

財政的にも自立し、従来にも増して効率的な運営をはかる。事務局業務を委託している株式会社アドスリーとの連携を密にし、適切で遅滞のない運営を行う。

(2) 学会活動の活性化

定例シンポジウム開催を定常化し、研究部会活動を推進するなど、学会活動の一層の活性化をはかる。

(3) 支部活動の支援

支部によるシンポジウム開催などの活動を積極的に支援し、支部活動を含めた学会活動全体の活性化に努める。

(4) 会員数の拡大

年次大会・イベント等を通じ、魅力ある学会をPRし、勧誘に努める。

以上

【編集委員会】

2020 年度編集委員会活動報告

下記の報告がなされた。

(1) 生態工学会誌の発刊

生態工学会誌「生態工学」32 巻 2 号～33 巻 1 号(2020 年 4 月、7 月、10 月、2021 年 1 月発刊)を発行した(内容:原著論文 11、短報 1、特別寄稿 0、ニュース・企画・報告 0、お知らせ、投稿規程、総ページ数 95)。なお、2020 年 4 月 22 日時点での査読・著者修正中の論文は、原著論文 3 報、短報 0 報、受理済み原著論文 2 報、受理済み短報 0 報である。

また、33 巻 2 号までをJ-STAGE上の電子ジャーナルとして公開した。

種類	2020 年度「生態工学」掲載論文一覧			
	第 32 巻		第 33 巻	
	2	3	4	1
特別寄稿				
特集論文				
原著論文	2	3	3	3
短報	1			
総合論文				
解説・資料				
受賞記念寄稿				
ニュース・企画・報告				

(2) 編集委員会の実施

2020 年度は 4 回のメール会議を実施した。

(3) 学会賞の推薦

奨励賞として戸田清太郎氏の「クロロフィル蛍光画像計測ロボットを用いた日単位の莖伸長計測」(Vol.32, No.2)を推薦した。論文賞は宮内達也氏の「Weather generator で生成した気象値が生態系プロセスモデルによるバイオマスおよび水収支推定に与える影響」(Vol.32, No.2)を推薦した。

2021 年度編集委員会 事業計画

下記の計画が発表された。

(1) 生態工学会誌の発刊

33 巻 2 号～34 巻 1 号までの計 4 回の発刊を行う。随時、特集企画を組んで紙面の充実を図るとともに、総合論文、特集記事などの投稿依頼を積極的に行う。また、生態工学会学術賞受賞者に寄稿をお願いする。さらに、原著論文の投稿増加を目指す。

- (2) 投稿規程等の整備
必要に応じて投稿規程等を実態に即した形に随時改定する。
- (3) 原著論文の査読体制についての整備
必要に応じて原著論文の査読体制をより迅速なものにするための改定を行なう。
- (4) 学会誌電子ジャーナルの公開
今年度も科学技術情報発信・流通総合システム「J-STAGE」において、本学会誌を電子ジャーナルとして公開する。公開に関する詳細については、利用状況を参考にしながら必要に応じて改定する。

以上

【企画委員会】

2020年度企画委員会活動報告

下記の報告がなされた。

- (1) 2020年度生態工学会年次大会(主催)
日 時:2020年6月26日(金)～7月9日(木)
会 場:オンライン開催
参 加 数:約70名(6月26日のみ)
特記事項:総会、表彰式、受賞者講演、口頭発表セッション、懇親会をオンライン会議方式、ポスターセッションをWEB公開方式で実施した。一般研究発表セッションの口頭発表は10件、ポスター発表は13件であった。
- (2) 第2回 生態工学サロン(主催)
日 時:2020年6月27日(土)
会 場:オンライン開催
参 加 数:30名強～40名弱
特記事項:次世代科学社会応援シンポジウム 2020と同時開催。
「宇宙時代の職業、そして基地の暮らし方 ～模擬ミッション経験を通して～」というタイトルで、村上祐資氏(極地建築家 NPO法人フィールドアシスタント 代表)に講演頂いた後、総合討論を実施した。
- (3) 日本地球惑星科学連合2020年大会(AGU合同開催)
日 時:2020年7月12日(日)～7月16日(木)
会 場:オンライン開催
主 催:日本地球惑星科学連合
特記事項:セッション「圏外環境における閉鎖生態系と生物システムおよびその応用」を提案し、口頭4件、ポスター5件の発表を予定していた。しかし、コロナ対応による開催形態の変更や日程の大幅な延期に伴い取り下げを検討・依頼したが、連絡と調整に時間を要したため、最終的に発表者各自の判断により、口頭枠で1件、ポスター枠で2件の発表が行われた。

(4) 「陸上養殖勉強会」アクアポニックス部会発足記念セミナー(支援)

日 時:2020年10月1日(木)

会 場:東京ビックサイト南展示棟南会議室B

主 催:「陸上養殖勉強会」アクアポニックス部会、生態工学会関東支部(共催)

特記事項:学会について幅広い分野の参加者に紹介できる上に、産業界との連携を得る機会にも繋がり、会員獲得の有効な活動であることから、企画委員会が積極的に支援した。

(5) 日本マイクログラビティ応用学会第32回学術講演会(JASMAG-32)(協賛)

日 時:2020年10月5日(月)~10月7日(水)

会 場:オンライン開催

特記事項:オンライン開催を生かした海外からの招待講演が5件あった。また、OS「宇宙生物」で北宅会長と横谷副会長、OS「宇宙惑星居住実現に向けた化学工学の役割」で白石副会長、OS「宇宙での長期居住を可能とするために」で木村理事、「物質科学/宇宙資源利用」にて桜井理事が発表した。なお、JASMAG-32実行委員より当学会年次大会実行委員会にオンライン開催についての技術指導の依頼があり、事務局で対応した。お互いの学会が協力し合う良い前例となったと考えている。

(6) 第64回宇宙科学技術連合講演会(共催)

日 時:2020年10月27日(火)~10月30日(金)

会 場:オンライン開催

特記事項:OS「宇宙で生きる!~宇宙居住と物質循環~」と題して開催した。17件の発表があり、その内の1件は日本語が堪能なジェット推進研究所(JPL)の職員、もう1件は米国コロラド大学留学中の日本人学生で海外からの発表であった。内容は極限環境に関するシミュレーション、植物、藻類、培養肉を含めた食糧生産、先端的な物理化学的生命維持技術、レゴリスの利用、宇宙惑星居住化学の推進など生態工学会の成果を取り入れた学際的な発表の場となった。今回はオンライン開催であったこともあり、学会誌に宇科連の発表内容をA4 1ページほどにまとめ提出した。

(7) 第3回 生態工学サロン

日 時:中止

特記事項:オンライン開催で検討を続けてきたが、コロナ禍により講師の調整が困難となったため、今年度は中止することとした。

(8) 定例研究会

日 時:中止

特記事項:理事会がオンライン開催になっていることに伴い、講師の確保が難しかったため実施しなかった。

2021 年度企画委員会事業計画

下記の計画が発表された。

(1) 日本地球惑星科学連合2021年大会(合同開催)

日 時:2021年5月30日(日)～6月6日(日)

会 場:オンライン開催

主 催:日本地球惑星科学連合

特記事項:6月6日にセッション「圏外環境における閉鎖生態系と生物システムおよびその応用」をZoom会場15で開催し、口頭発表4件(9:00～10:30)とポスター発表5件(午後)実施予定。

(2) 2021年度生態工学会年次大会(主催)

日 時:2021年6月25日(金)～6月26日(土)

会 場:オンライン大会

特記事項:前回と同様にオンライン大会で開催するが、今大会はすべての行事をオンライン会議方式で実施する。会期中には、特別講演会(三重大)の他、関連委員会主催で下記の4つのOSを実施する。

- ・タイ国カセサート大学との国際セッション(国際委員会)
- ・次世代応援シンポジウム2021(次世代科学社会活性化委員会)
- ・生態工学会若手の会のキャリアパス(若手の会)
- ・研究成果の実用化、特に企業との関係で重要な視点(実行委員会)

(3) 第65回宇宙科学技術連合講演会(共催)

日 時:2021年11月9日(火)～11月12日(金)

会 場:オンライン開催

特記事項:オーガナイズドセッション「宇宙で生きる！～宇宙居住と物質循環～」を実施予定

(4) 第2回 生態工学サロン(主催)

日 時:未 定

会 場:未 定

特記事項:開催時期と方式については、コロナの感染状況により検討する。

(5) 定例研究会

第2回以降の理事会後にオンライン方式で実施する方向で検討する。

以上

【表彰委員会】

2020年度表彰委員会活動報告

下記の報告がなされた。

(1) 表彰式、受賞記念講演の実施

2020年度総会(2020年6月26日、オンライン開催)後に表彰式を行ない、以下の通り表彰した。

【学術賞】

蘆原 昌司 氏

食品評価へのフロンカウンティング技術の応用に関する研究

【論文賞】

鄧 博慶 殿

小型 UAV を用いたカラマツ林の 3 次元リモートセンシングとその精度評価

武田 美恵 殿

石垣島の農業集落における住民同士のコミュニケーションと農家の農業意欲及び生産支援に関する研究

西野 康人 殿

Ecology and Hydrography of Sea Ice and the Water Column in Lagoon Notoro-ko during Frozen Period.

(結氷期の能取湖における海氷と水柱の低次生産層における環境動態)

【奨励賞】

岩永 征士 殿

Effect of humid air on photocatalytic decomposition of ethylene by TiO₂ immobilized on different supports.

(異なる担体に固定化した TiO₂によるエチレンの光触媒分解への湿気を含んだ空気の影響)

(2) 被表彰者の選考

2021年度被表彰候補者について審議し、以下の通り選考した。

【学術賞】

土肥 哲哉 氏

バイオマス利活用の技術開発と普及促進

【功労賞】

伊能 利郎 氏

生態工学会の学会運営に対する貢献

田村 治美 氏

生態工学会の学会運営に対する貢献

【論文賞】

宮内 達也 氏

weather generator で生成した気象値が生態系プロセスモデルによるバイオマスおよび水収支推定に与える影響

【奨励賞】

戸田 清太郎 氏

クロロフィル蛍光画像計測ロボットを用いた日単位の茎伸長計測

2021 年度表彰委員会事業計画

下記の計画が発表された。

(1) 表彰式の実施

2021 年 6 月 25 日の総会後に表彰式を行ない、2021 年度被表彰者を表彰する。優秀講演賞については全発表が終了した後、表彰委員会の選考を経て、表彰する。

(2) 被表彰者の募集と選考

各賞の被表彰者の募集および候補者の選考を表彰規定に基づき実施する。

以上

【広報委員会】

2020 年度広報委員会活動報告

下記の報告がなされた。

(1) SEE Quick(メール配信)の運営

SEE Quick 配信依頼に対する取り扱い方法の運用を通して、会員および関連学会からの情報の速やかな配信業務が成し遂げられ、2020 年 4 月 1 日から 2021 年 3 月 31 日までに 37 回(通算 1674 回)情報提供を行った。

(2) HP の内容の更新

会員および一般の方へ、生態工学会の情報伝達を迅速に行うことを目的に、HP コンテンツ確認作業を行い、適宜内容を更新した。

(3) 生態工学会リーフレットの改訂

企画委員会の協力のもと、生態工学会リーフレットを一部改訂した。

2021 年度広報委員会事業計画

下記の計画が発表された。

(1) SEE Quick 配信(メール配信)の運営

円滑な SEE Quick の配信業務を行うとともに、問題点などを検証し改善に努める。
また、会員からの有用な情報を迅速に配信できる体制を維持する。

(2) HP の内容の更新

迅速な HP の内容の更新と整備を行い、会員および一般の方への情報提供を行う。また、HP コンテンツ拡充のため、他学会 HP 等の内容を調査し、当学会 HP の充実・改善に努める。

(3) 生態工学会リーフレットの改訂

生態工学会リーフレットの記載内容に変更が生じた際に、迅速に改訂できる連絡・編集体制を構築する。

以上

【国際委員会】

2020 年度国際委員会活動報告

下記の報告がなされた。

カセサート大学研究者との関係維持に努めた。

カセサート大学機関誌と生態工学会誌の相互閲覧について相手先と協議を行い、雑誌の掲載内容の違い、送付作業の負担と費用などの問題から中止することとなった。

2021 年度国際委員会事業計画

下記の計画が発表された。

2021 年度生態工学会年次大会でのカセサート大学研究者との国際セッションの開催。
カセサート大学の研究者 2 名へ講演を依頼し、承諾を得た。

以上

【次世代科学社会活性化委員会】

2020 年度次世代科学社会活性化委員会活動報告

下記の報告がなされた。

- (1) 生態工学会年会の次の日に当委員会が主催する「次世代科学社会応援シンポジウム 2020」が開催された。オンラインでありながら活発な討論と懇親の場が提供された。
- (2) 継続して男女共同参画学協会連絡会の運営委員としての活動を行った。例年通り、秋の連絡会シンポジウムにポスターで参加することを予定していたが、新型コロナ禍のため要旨集の参加のみとなった。
- (3) 当委員会が開催する次世代科学社会応援シンポジウム 2021 は、生態工学会年次大会にシンポジウムとして開催するべく準備を行った。
- (4) 次世代科学社会活性化委員会の中の若手の会の組織交代の準備が進み、現在は、会長寺内氏(海洋大)の体制で進められている。活発な活動がなされている。

2021 年度次世代科学社会活性化委員会事業計画

下記の計画が発表された。

- (1) 継続して男女共同参画学協会連絡会の運営委員としての活動を行っている。例年通り、今年度も秋の連絡会シンポジウムにポスターで参加することを予定している。
- (2) 当委員会が開催する「次世代科学社会応援シンポジウム 2021」は、生態工学会年次大会にオーガナイズドセッションのひとつとして開催するべく準備を行ってきた。今回、「次世代科学社会応援シンポジウム 2021」を生態工学会年会の中で開催する。男女共同参画の運営委員会にいつも協力してくださっている農工大の清水美穂先生を中心に開催を予定している。
- (3) 若手の会から自主的なオーガナイズドセッションが企画され準備されている。

オーガナイザー: 清水美穂: 加藤浩: 横谷香織

セッションタイトル

「次世代応援シンポジウム 2021」: 閉鎖環境における well-being～社会参加寿命延伸、ジェンダード・イノベーション

セッションの内容(100 字程度)

次世代科学社会活性化委員会が主催・継続している次世代応援シンポジウムは若手応援のほか、科学を軸に世代を超えて生きて生きる知恵を得られる場である。本年度は、生態工学会年会の中のオーガナイズドセッションの中で、人間の身体を各自が知り実践することの大切さを、世代を超えて講演の中で見出す。第6期科学技術・イノベーション基本計画の内容を含めて生態工学会での貢献も視野に討論する。

セッションの趣旨説明 筑波大学 横谷香織 1分

セッション進行 今回の委員長 農工大 清水美穂

講演1 細胞を覗いて感じた小宇宙と私のいのち～ α B-クリスタリン&チュブリンダイナミクスを通じて 農工大 堀ノ内慎哉(M2) 15分

講演2 1日1回、私の身体の細胞とのコミュニケーション: 仰臥位で行うボディフルネス～身体チューニング法～の発見 農工大 跡見頼子 25分

総合討論(パネル)18分

終わり挨拶 前回委員長 三重大学 加藤浩 1分

確定し次第、HPの方にも掲載をお願いしたい。

(4) 次世代科学社会活性化委員会の中の若手の会について、現在は、会長 鴫田未来氏(筑波大)の体制で進められ、若手のオーガナイズドセッションも今年度年会で予定されている。

以上

【事業推進委員会】

2020年度事業推進委員会活動報告

下記の報告がなされた。

2020年度は若手およびシニア(例えば会社をリタイアされた方々)の会員増強をはかり、気軽に継続して活動に参加でき、またオンラインを活かすなど、コロナとの共存時代にも相応しい新たな事業推進の仕掛けづくりの検討を進めていくことを目標に、モデルとしてまずは関西支部で若手およびシニアも交えたオンラインでのシンポジウムを開催し、SDGsをテーマにしたパネルディスカッションやフリーディスカッションを行った。

2021年度事業推進委員会事業計画

下記の計画が発表された。

オンラインが普及したことをきっかけとして各支部行事や他の学会行事との相互乗入れ化により、支部活動の活性化を目指すと同時に会員増強を目指す。

以上

【各支部活動】

2020年度各支部活動報告

下記の報告がなされた。

【関東支部】

寺添副会長の年次大会準備に協力した。

【東海支部】

日本農業気象学会東海・北陸支部、日本生物環境工学会東海支部と合同支部会を開催した。
(詳細は別添にて)

【関西支部】

〈関西支部大会開催〉

関西支部では、支部会活動の活性化および学会会員増強のため2014年度より日本農業気象学会近畿支部との共催によるシンポジウムを行ってきたが、コロナ禍の下で昨年度の開催は中止を余儀なくされた。一方で、昨年度は関西支部には8名の新しい方の入会が確認されたので、何かイベントを開催したいと思い、オンラインでの関西支部大会を下記内容にて企画して実施した。

(内容)

1. 関西支部総会 13:30～13:50(関西支部会員限定)

(1) 支部活動報告&活動計画

(2) 支部会員のご紹介等

————— 休憩(10分) —————

2. シンポジウム 14:00～16:00(生態工学会全会員)

「生態工学への企業からのアプローチ」

(1) 開会の挨拶 生態工学会 会長 北宅善昭

(2) 趣旨説明 実行委員長・関西支部長 伊能利郎

(3) 講演 座長: 実行委員 大阪府立大学 遠藤良輔

14:10-14:35 「社は「社会立社、技術立社」の精神に培われた取組紹介」

(株)日吉 中村昌文 氏

14:35-15:00 「東南アジアに於ける農業をベースとした資源循環への取り組み」

ヤンマーグローバルエキスパート(株) 松原武夫 氏

15:00-15:25 「植物工場への取組みで感じていること」

エスペックミック(株) 中村謙治 氏

————— 休憩(5分) —————

(4) 総合討論・パネルディスカッション

・テーマ「生態工学への企業からのアプローチ ～SDGsと生態工学～」

・話題提供&コーディネーター 伊能利郎

・パネラー (株)日吉 中村昌文 氏、

ヤンマーグローバルエキスパート(株) 松原武夫 氏、

エスペックミック(株) 中村謙治 氏、

関東支部長 玉川大学 増田篤稔 氏、

協和(株) 磯山侑里 氏、(株)荏原製作所 上田麻里衣 氏

(5)閉会の挨拶

実行委員長・関西支部長 伊能利郎



パネルディスカッションの様子

初めてのオンラインでの支部大会開催であったが、準備スタッフの方々の多大なるご協力のお陰で 24 名の参加をいただき、無事に開催を終えることが出来た。また、朝日新聞社の冊子を参加者に配布することで、SDGs に対する理解を深めることが出来た。

2021 年度各支部事業計画

下記の計画が発表された。

【関東支部】

年次大会準備と事務局活動を行う。
今年度の支部活動計画案検討予定。

【東海支部】

2020 年度同様に、日本農業気象学会東海・北陸支部、日本生物環境工学会東海支部と合同支部会を行うことを検討している。

【関西支部】

〈合同シンポジウム開催〉

2021 年度は従来からの農業気象学会近畿支部との合同シンポジウムを 11 月下旬～12 月上旬に開催を予定したい。(詳細は未定)

〈支部会員交流・情報交換〉

昨年同様にオンラインでの支部会員交流の場を計画し、会員内の交流機会を設けたい。
(内容は未定)

【九州・沖縄支部】

九州地区での会員募集を強化し、会員数の増加に努める。

以上

【2021 生態工学会 年次大会】

下記の報告がなされた。

(1) 発表申し込み状況

口頭発表 9 件、ポスター発表 14 件
オーガナイズドセッション 6 件

(2) 開催期間とスケジュール

- ・ 開催期間:2020 年 6 月 25 日(金)、6 月 26 日(土)
- ・ スケジュール:セッション番号の後の()は想定発表数と所要時間
6 月 14 日(水)~24 日(木):総会説明者、発表者による会議室システムへの接続テスト
6 月 25 日(金)

09:20~09:50	接続最終確認(30分)
09:50~10:00	開会式
10:00~12:00	国際シンポジウム(120分)
12:00~13:00	昼休み(60分)
13:00~13:45	総会(45分)
13:45~13:55	休憩(10分)
13:55~14:15	表彰式(20分)
14:15~14:45	受賞者講演(1名、30分)
14:45~14:55	休憩(10分)
14:55~15:25	OS「研究成果の実用化、特に企業との関係で重要な視点」 稲森悠平会員(30分)
15:25~16:25	OS「NPO 法人蔵前バイオエネルギーの活動紹介」 篠崎正利会員(60分)
16:25~16:35	休憩(10分)
16:35~17:35	OS「次世代応援シンポジウム 2021 閉鎖環境における well-being~社会参加 寿命延伸、ジェンダー・イノベーション」 清水美穂会員(60分)
17:35~18:00	1日目終了、各自懇親会準備
18:00~19:30	オンライン懇親会
6 月 26 日(金)	
08:15~08:30	接続最終確認(30分)
08:30~09:45	口頭発表セッション 1(5 件、75 分)
09:45~09:55	休憩(10分)
09:55~11:05	口頭発表セッション 2(4 件、60 分)
11:05~11:15	休憩(10分)
11:15~12:15	OS「生物のつながりと環境修復」 加藤浩会員
12:15~13:00	昼食(45分)
13:00~14:00	ポスターセッション(14 件、60 分)
14:00~14:15	休憩
14:15~15:15	OS「生態工学会若手の会のキャリアパス」 鴫田未来会員
15:15~15:30	表彰式(15分)
15:30~17:00	特別講演会(2 名、90 分)
17:00~17:30	表彰式・閉会式
17:30~19:30	オンライン懇親会 その 2

(3) 運営方法

① Zoom ミーティング

- ・ 対象行事:総会、表彰式、受賞者講演、口頭発表セッション、オーガナイズドセッション、特別講演会、オンライン懇親会
- ・ ホストは事務局。各行事で必要に応じて共同ホストを設ける。

総会:総務理事
 表彰式・受賞者講演:表彰理事
 口頭発表セッション:座長
 オーガナイズドセッション:オーガナイザー

- ・ 各行事の開始前に事務局から必要最低限の関係者の出席確認を取る。
- ・ 各行事の開始前、終了後等に事務局からからマイク、挙手等の操作を紹介する。
- ・ 総会の議決は挙手で行う予定。
- ・ 口頭発表セッションでは、挙手による質疑応答を予定

② Zoom ブレイクルーム

- ・ 対象行事:ポスターセッション
- ・ ポスター発表者分のブレイクルームを設定
- ・ 参加者は、ブレイクルーム間を自由に移動できる。
- ・ 各ブレイクルームでは、発表者がポスターを画面共有した状態で待機
- ・ 参加者が入室後に通常のポスターセッションと同様に説明する。
- ・ ポスターは、1枚で画面での閲覧を念頭に、横長(16:9)で作製

③ その他

- ・ 参加者には、遅くとも1週間前までに招待メールを参加者に送付
- ・ 口頭発表、ポスター発表、オーガナイズドセッション参加者用にテスト接続の機会を複数回設けて、実行委員メンバーによる動作チェックを実施する。
- ・ Zoomに関する以下のマニュアルをHPに掲載、または掲載予定
 - 2021 生態工学会オンライン大会マニュアルー参加者用ー
 - 2021 生態工学会オンライン大会マニュアルー口頭発表者用ー
 - 2021 生態工学会オンライン大会マニュアルーオーガナイザー用ー
 - 2021 生態工学会オンライン大会マニュアルーポスター発表者用ー

(4) 表彰、参加費、講演要旨集

- ・ 表彰:優秀講演賞を選定する。選考方法は、検討中
- ・ 参加費

	会員種別	大会参加費	発表論文集 ダウンロード	冊子購入※
発表あり	会員	2,000(不課税)	○	予約申込
	非会員	3,000(消費税込み)	○	予約申込
	学生会員	1,000(不課税)	○	予約申込
	非会員学生	2,000(消費税込み)	○	予約申込
聴講のみ	会員	2,000(不課税)	○	予約申込
	非会員	3,000(消費税込み)	○	予約申込
	学生会員	500(不課税)	○	予約申込
		無料	×	
	非会員学生	1,000(消費税込み)	○	予約申込
		無料	×	

※冊子は、申し込み時に希望者を募り、必要部数を作成後送付(実費負担)

以上